

北里病発第 号  
平成20年10月 1日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 北里研究所 北里大  
理事長 柴 忠義

## 北里大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成19年度の業務に関して報告します。  
記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

|        |      |
|--------|------|
| 研修医の人数 | 127人 |
|--------|------|

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業員の員数

| 職種    | 常勤   | 非常勤  | 合計     | 職種      | 員数  | 職種          | 員数   |
|-------|------|------|--------|---------|-----|-------------|------|
| 医師    | 409人 | 123人 | 431.5人 | 看護業務補助  | 65人 | 診療エックス線技師   | 0人   |
| 歯科医師  | 1人   | 3人   | 1.3人   | 理学療法士   | 19人 | 臨床検査技師      | 111人 |
| 薬剤師   | 48人  | 2人   | 49.0人  | 作業療法士   | 4人  | 衛生検査技師      | 1人   |
| 保健師   | 6人   | 0人   | 6.0人   | 視能訓練士   | 9人  | 検査その他       | 0人   |
| 助産師   | 34人  | 1人   | 34.1人  | 義肢装具士   | 0人  | あん摩マッサージ指圧師 | 0人   |
| 看護師   | 963人 | 41人  | 981.9人 | 臨床工学技士  | 28人 | 医療社会事業従事者   | 7人   |
| 准看護師  | 4人   | 0人   | 4.0人   | 栄養士     | 2人  | その他の技術員     | 14人  |
| 歯科衛生士 | 0人   | 0人   | 0人     | 歯科技工士   | 0人  | 事務職員        | 190人 |
| 管理栄養士 | 24人  | 0人   | 24.0人  | 診療放射線技師 | 62人 | その他の職員      | 90人  |

(注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、少数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

|              | 歯科等以外  | 歯科等 | 合計       |
|--------------|--------|-----|----------|
| 1日当たり平均入院患者数 | 820人   | 0人  | 820人     |
| 1日当たり平均外来患者数 | 2,606人 | 0人  | 2,606人   |
| 1日当たり平均調剤数   |        |     | 2,126.6剤 |

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 1 先進医療の届け出受理の有無及び取扱い患者数

| 先進医療の種類                                      | 届出受理 | 取扱い患者数 |
|--|------|--------|
| 高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術                           | 有・無  | 人      |
| 膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション                       | 有・無  | 人      |
| 凍結保存同種組織を用いた外科治療                             | 有・無  | 人      |
| 胎児心超音波検査                                     | 有・無  | 人      |
| インプラント義歯                                     | 有・無  | 人      |
| 顎顔面補綴  | 有・無  | 人      |
| 顎間節症の補綴学的治療                                  | 有・無  | 人      |
| 経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法                       | 有・無  | 人      |
| 人工括約筋を用いた尿失禁の治療                              | 有・無  | 0 人    |
| 光学印象採得による陶材歯冠修復法                             | 有・無  | 人      |
| 経皮的レーザー椎間板減圧術                                | 有・無  | 人      |
| 造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定                  | 有・無  | 人      |
| スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法                        | 有・無  | 人      |
| CTガイド下気管支鏡検査                                 | 有・無  | 人      |
| 先天性血液凝固異常症の遺伝子診断                             | 有・無  | 人      |
| 筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断                      | 有・無  | 人      |
| SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験                            | 有・無  | 人      |
| 三次元形状解析による顔面の形態的診断                           | 有・無  | 人      |
| HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験                  | 有・無  | 人      |
| 子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断                          | 有・無  | 人      |
| 腹腔鏡下肝部分切除術                                   | 有・無  | 人      |
| 悪性腫瘍に対する陽子線治療                                | 有・無  | 人      |
| エキシマレーザーによる治療的角膜切除術                          | 有・無  | 人      |
| 成長障害のDNA診断                                   | 有・無  | 人      |
| 門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術                     | 有・無  | 人      |
| 乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術                           | 有・無  | 人      |
| 声帯内自家側頭筋膜移植術                                 | 有・無  | 0 人    |
| 骨髄細胞移植による血管新生療法                              | 有・無  | 人      |
| ミコントリア病のDNA診断                                | 有・無  | 人      |
| 鏡視下肩峰下腔除圧術                                   | 有・無  | 人      |
| 神経変性疾患のDNA診断                                 | 有・無  | 人      |
| 難治性眼疾患に対する羊膜移植術                              | 有・無  | 人      |
| 重粒子線治療                                       | 有・無  | 人      |
| 脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術                             | 有・無  | 人      |
| 31発-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断 | 有・無  | 人      |
| 神経芽腫のRNA診断                                   | 有・無  | 人      |
| 硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療                         | 有・無  | 人      |
| 重症BCG副反応症例における遺伝子診断                          | 有・無  | 人      |
| 骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素凍結骨移植                   | 有・無  | 人      |
| 肺腫瘍に対する腹腔鏡補助下肺切除術                            | 有・無  | 人      |
| 低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断                          | 有・無  | 人      |

| 先進医療の種類   | 届出受理 | 取扱い患者数 |
|---|------|--------|
| 悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析                    | 有・無  | 人      |
| Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断                         | 有・無  | 人      |
| エキシマレーザ冠動脈形成術                                     | 有・無  | 人      |
| 活性化Tリンパ球移入療法                                      | 有・無  | 人      |
| 家族性アルツハイマー病の遺伝子診断                                 | 有・無  | 人      |
| 膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術                              | 有・無  | 人      |
| 三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療                            | 有・無  | 人      |
| 泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術                  | 有・無  | 人      |
| HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植                     | 有・無  | 人      |
| 頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術             | 有・無  | 人      |
| ケラチン病の遺伝子診断                                       | 有・無  | 人      |
| 隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断                                   | 有・無  | 人      |
| 抹消血幹細胞による血管再生治療                                   | 有・無  | 人      |
| 抹消血単核球移植による血管再生治療                                 | 有・無  | 人      |
| 一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術    | 有・無  | 人      |
| カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法                        | 有・無  | 人      |
| 先天性銅代謝異常症の遺伝子診断                                   | 有・無  | 人      |
| 超音波骨折治療法  | 有・無  | 10 人   |
| CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法         | 有・無  | 人      |
| 非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存                        | 有・無  | 21 人   |
| X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術                     | 有・無  | 人      |
| 定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価                          | 有・無  | 人      |
| 膀胱水圧拡張術   | 有・無  | 人      |
| 色素性乾皮症に係る遺伝子診断                                    | 有・無  | 人      |
| 先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断                               | 有・無  | 人      |
| 歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法                          | 有・無  | 人      |
| セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術 | 有・無  | 人      |
| 腹腔鏡下直腸固定術   | 有・無  | 人      |
| 骨移動術による関節温存型再建                                    | 有・無  | 人      |
| 肝切除手術における画像支援ナビゲーション                              | 有・無  | 人      |
| 樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍)      | 有・無  | 人      |
| 自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法                          | 有・無  | 人      |
| 自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法                    | 有・無  | 人      |
| リアルタイムPCRを用いた迅速診断                                 | 有・無  | 人      |
| 内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術                                    | 有・無  | 人      |
| 多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術                                | 有・無  | 人      |
| 先天性難聴の遺伝子診断                                       | 有・無  | 人      |
| フェニルケトン尿症の遺伝子診断                                   | 有・無  | 人      |
| 培養細胞による先天性代謝異常診断                                  | 有・無  | 人      |
| 腹腔鏡下子宫体がん根治手術                                     | 有・無  | 人      |
| 培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断                      | 有・無  | 人      |

| 先進医療の種類                               | 届出受理 | 取扱い患者数 |
|---------------------------------------|------|--------|
| 内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術                         | 有・無  | 人      |
| 悪性黒色種におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断              | 有・無  | 人      |
| 腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術      | 有・無  | 人      |
| 悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索      | 有・無  | 13 人   |
| カフェイン併用化学療法                           | 有・無  | 人      |
| 胎児尿路・羊水腔シャント術                         | 有・無  | 人      |
| 筋過緊張に対するmuscle afferent block (MAB)治療 | 有・無  | 人      |
| 胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法                    | 有・無  | 人      |
| 腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法                     | 有・無  | 人      |
| 内視鏡下甲状腺がん手術                           | 有・無  | 人      |
| 骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法               | 有・無  | 人      |
| 下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法                   | 有・無  | 人      |
| 胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術                   | 有・無  | 人      |
| 早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索              | 有・無  | 人      |
| 副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法             | 有・無  | 人      |

(注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

## 2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

| 疾 患 名            | 取扱い患者数 | 疾 患 名                     | 取扱い患者数    |
|------------------|--------|---------------------------|-----------|
| ・ベーチェット病         | 113 人  | ・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)        | 96 人      |
| ・多発性硬化症          | 80 人   | ・ウェゲナー肉芽腫症                | 9 人       |
| ・重症筋無力症          | 111 人  | ・特発性拡張型(うつ血型)心筋症          | 118 人     |
| ・全身性エリテマトーデス     | 681 人  | ・多系統萎縮症                   | 33 人      |
| ・スモン             | 0 人    | ・表皮水泡症(接合部型及び栄養障害型)       | 2 人       |
| ・再生不良性貧血         | 58 人   | ・膿胞性乾癬                    | 10 人      |
| ・サルコイドーシス        | 102 人  | ・広範脊柱管狭窄症                 | 4 人       |
| ・筋萎縮性側索硬化症       | 7 人    | ・原発性胆汁性肝硬変                | 40 人      |
| ・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎 | 439 人  | ・重症急性胰炎                   | 8 人       |
| ・特発性血小板減少性紫斑病    | 164 人  | ・特発性大腿骨頭壞死症               | 77 人      |
| ・結節性動脈周囲炎        | 50 人   | ・混合性結合組織病                 | 88 人      |
| ・潰瘍性大腸炎          | 25 人   | ・原発性免疫不全症候群               | 3 人       |
| ・大動脈炎症候群         | 33 人   | ・特発性間質性肺炎                 | 31 人      |
| ・ビュルガー病          | 31 人   | ・網膜色素変性症                  | 38 人      |
| ・天疱瘡             | 38 人   | ・プリオント病                   | 2 人       |
| ・脊髄小脳変性症         | 29 人   | ・原発性肺高血圧症                 | 9 人       |
| ・クローン病           | 16 人   | ・神経纖維腫症                   | 12 人      |
| ・難治性の肝炎のうち劇症肝炎   | 0 人    | ・亜急性硬化性全脳炎                | 0 人       |
| ・悪性関節リウマチ        | 21 人   | ・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群  | 2 人       |
| ・パーキンソン病関連疾患     | 91 人   | ・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)       | 3 人       |
| ・アミロイドーシス        | 4 人    | ・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む | 1 人       |
| ・後縫靭帯骨化症         | 31 人   | ・副腎白質ジストロフィー              | 0 人       |
| ・ハンチントン病         | 1 人    |                           | 合計 2,711人 |

(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 3. 病院・臨床検査部門の概要

|                                     |   |            |
|-------------------------------------|---|------------|
| 臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況                | ① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。<br>2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。 |            |
| 臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度 | 病院病理部 150回/1年(週3回)  |            |
| 剖 檢 の 状 況                           | 剖検症例数 88 例  | 剖検率 12.4 % |

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1. 研究費補助等の実績

| 研究課題名  | 研究者氏名 | 所 属 部 門 | 金 額   | 補助元又委託元                 |
|--|-------|---------|-------|-------------------------|
| 大腸癌の発生、進展および治療感受性に関する因子の解析   | 渡邊昌彦  | 外科      | 200万  | 科学技術振興機構                |
| がんの早期診断およびに予後診断に役立つ腫瘍マーカーの開発   | 渡邊昌彦  | 外科      | 120万  | 厚生労働省がん研究助成金            |
| 進行大腸がんに対する腹腔鏡下手術の根治性に関する比較研究   | 渡邊昌彦  | 外科      | 134万  | 厚生労働科学硏究費補助金            |
| 糖鎖機能活用技術開発プロジェクト   | 渡邊昌彦  | 外科      | 210万  | 独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 |
| 大腸癌肝転移切除後患者様を対象としたフルオロウラシル/I-ロイコボリンとオキサリプラチニ併用補助化療法(mFOLFOX6) vs. 手術単独によるランダム化II/III相試験 (JCOG0603) | 渡邊昌彦  | 外科      | 15万   | 厚生労働科学硏究費補助金            |
| 進行性大腸がんに対する低侵襲治療法の確立に関する研究   | 佐藤武郎  | 外科      | 84万   | 補) 厚生労働省<がん臨床>委         |
| 胃癌の機能温存手術—残胃後壁打ち抜き・全器械吻合による幽門保存胃切除術の評価—についての研究   | 桜本信一  | 外科      | 13,5万 | 補) (財) かながわ健康財団委        |
| 肝癌に対する腹腔鏡下肝切除後の肝癌再発抑制効果の研究   | 古田一徳  | 外科      | 9万    | 補) (財) かながわ健康財団委        |
| コラーゲン合成制御によるスキルス胃癌間質の線維化、硬化抑制に関する基礎的研究   | 菊池史郎  | 外科      | 70万   | 補) 文部科学省<基礎研究C>委        |

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1. 研究費補助等の実績

| 研究課題名                               | 研究者氏名 | 所 属 部 門 | 金 額  | 補助元又委託元                          |
|-------------------------------------|-------|---------|------|----------------------------------|
| 急性循環障害時におけるトロンボキサンA2の血管新生増強メカニズムの解析 | 天野英樹  | 呼吸器外科   | 170万 | (補)<br>独立行政法人<br>日本学術振興会         |
| 病態時の脈管動態の分子基盤と治療への応用                | 天野英樹  | 呼吸器外科   | 50万  | (補)<br>文部科学省「ハイテク・リサーチ・センター整備事業」 |
|                                     |       |         | 万    | 補<br>委                           |

呼吸器外科計 2件

- [注] 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1. 研究費補助等の実績

| 研究課題名                                 | 研究者氏名 | 所 属 部 門 | 金 額  | 補助元又委託元    |
|---------------------------------------|-------|---------|------|------------|
| 急性高度難聴に関する調査研究                        | 岡本牧人  | 耳鼻咽喉科   | 110万 | (補) 厚生労働省委 |
| 新生児・乳幼児難聴の診断および療育に関する研究               | 岡本牧人  | 耳鼻咽喉科   | 100万 | (補) 厚生労働省委 |
| 下咽頭癌の浸潤転移を規定する既存・新規分子の発現と予後との関連性      | 中山明仁  | 耳鼻咽喉科   | 80万  | (補) 文部科学省委 |
| 抗利尿ホルモン投与による聽覚低下動物における蝸牛血管条、外側壁病変の解析  | 長沼英明  | 耳鼻咽喉科   | 150万 | (補) 文部科学省委 |
| 扁桃における糖鎖不全IgA産生メカニズムの解明               | 伊藤昭彦  | 耳鼻咽喉科   | 160万 | (補) 文部科学省委 |
| モルモット咽頭粘膜および輪状咽頭筋におけるニューベプチドの動態に関する研究 | 横堀 学  | 耳鼻咽喉科   | 70万  | (補) 文部科学省委 |
|                                       |       |         |      |            |

耳鼻咽喉科計 6件

- [注] 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

### 1. 研究費補助等の実績

| 研究課題名  | 研究者氏名  | 所 属 部 門 | 金 額  | 補助元又委託元          |
|--|--------|---------|------|------------------|
| 難治性疾患克服研究事業<br>特発性心筋症に関する調査研究  | 和泉 徹   | 循環器内科   | 140万 | 補 厚生労働省委         |
| 循環器病研究委託事業<br>高齢者心不全の治療戦略に関する研究<br>分担研究課題名：北里大学における日常臨床データに基づく高齢者心不全の発症・進展に関する新しい因子および治療法の解析 | 和泉 徹   | 循環器内科   | 80万  | 補 委 国立循環器病センター   |
| イオンチャネル再生療法による心不全制御の実験的研究  | 庭野 慎一  | 循環器内科   | 90万  | 補 独立行政法人日本学術振興会委 |
| 重症虚血肢に対するPUVA療法の有効性についての検討   | 東條 大輝  | 循環器内科   | 120万 | 補 独立行政法人日本学術振興会委 |
| 心筋リモデリングにおけるIQGAP1の役割  | 東條 美奈子 | 循環器内科   | 150万 | 補 独立行政法人日本学術振興会委 |

循環器内科計 5件

- [注] 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

### 1. 研究費補助等の実績

| 研究課題名  | 研究者氏名 | 所 属 部 門 | 金 額      | 補助元又委託元           |
|--|-------|---------|----------|-------------------|
| 川崎病の病因解明と新しい効果的な治療法の開発：分子遺伝学的基盤の検討               | 石井 正浩 | 小児科学    | 169<br>万 | 補 文部科学省<br>委      |
| 小児1型糖尿病の発症感受性遺伝子の検討－発症リスクを予測に、早期介入は可能か？－         | 田久保憲行 | 小児科学    | 50<br>万  | 補 文部科学省<br>委      |
| 未熟児低血糖症の新たな病態解明（アクアポリングリセロールの輸送体の関与）             | 柴山 啓子 | 小児科学    | 247<br>万 | 補 文部科学省<br>委      |
| 小児期肥満から成人病への進行抑制：動脈硬化病変の定量的評価と効果的治療法の開発          | 石井 正浩 | 小児科学    | 100<br>万 | 補 先進医薬研究振興財団<br>委 |
| 小児肥満が動脈硬化病変への進行に与える影響：動脈硬化病変への進行の定量的評価と効果的治療法の開発 | 石井 正浩 | 小児科学    | 100<br>万 | 補 三井生命厚生事業団<br>委  |

小児科計 5件

- [注] 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1. 研究費補助等の実績

| 研究課題名                  | 研究者氏名 | 所 属 部 門 | 金 額    | 補助元又委託元                   |
|------------------------|-------|---------|--------|---------------------------|
| 片頭痛に対する画期的治療法の開発に関する研究 | 坂井 文彦 | 神経内科    | 1,000万 | 補 : 厚生労働科学<br>研究費補助金<br>委 |
|                        |       |         | 万      | 補<br>委                    |
|                        |       |         | 万      |                           |

神経内科計 1件

- [注] 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1. 研究費補助等の実績

| 研究課題名  | 研究者氏名 | 所 属 部 門 | 金 額  | 補助元又委託元   |
|--|-------|---------|------|-----------|
| 広汎性発達障害・ADHDの原因究明と効果的発達支援・治療法の開発<br>一分子遺伝・脳画像を中心とするアプローチ | 山本賢司  | 精神科学    | 150万 | 補:厚生科学研究費 |
| 自殺企図の再発防止に対する複合的ケースマネージメントの効果－多施設共同による無作為化比較試験           | 宮岡等   | 精神科学    | 260万 | 生科学研究費    |

精神神経科計 2件

- [注] 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1. 研究費補助等の実績

| 研究課題名                                    | 研究者氏名 | 所 属 部 門 | 金 額   | 補助元又委託元            |
|--|-------|---------|-------|--------------------|
| マウス前立腺癌に対するIL-12遺伝子治療と放射線併用療法における抗腫瘍効果検討 | 藤田哲夫  | 泌尿器科学   | 120万  | 補 北里大学<br>医学部<br>委 |
| 膀胱癌における浸潤能、薬剤耐性能獲得へのミトコンドリアDNAの役割に関する検討  | 松本和将  | 泌尿器科学   | 143万  | 補 北里大学<br>医学部<br>委 |
| 早期前立腺がんにおける根治術後の再発に対する標準的治療法の確立に関する研究    | 馬場志郎  | 泌尿器科学   | 100 万 | 補 北里大学<br>医学部<br>委 |
| 腎移植におけるプロテオーム解析による急性・慢性拒絶反応り低侵襲診断技術の確立   | 吉田一成  | 泌尿器科学   | 180万  | 補 北里大学<br>医学部<br>委 |
| プロテオミクスの手法を用いた腎細胞癌新規腫瘍マーカー蛋白の検索          | 岩村正嗣  | 泌尿器科学   | 110 万 | 補 北里大学<br>医学部<br>委 |
| OAB併存BPHに対する薬物効果の検討                      | 松本和将  | 泌尿器科学   | 100 万 | 補 北里大学<br>医学部<br>委 |

泌尿器科計 6件

- [注] 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1. 研究費補助等の実績

| 研究課題名                               | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額   | 補助元又委託元      |
|-------------------------------------|-------|------|------|--------------|
| ヒト頭部皮膚由来毛包細胞の分離培養と抹消神経、脊髄損傷部の再生態の確認 | 天羽 康之 | 皮膚科  | 120万 | 補 文部科学省<br>委 |
| ヒト皮膚毛包幹細胞を用いた抹消神経・脊髄損傷の修復と再生        | 天羽 康之 | 皮膚科  | 900万 | 補 文部科学省<br>委 |
|                                     |       |      | 万    | 補<br>委       |

皮膚科計 2件

- [注] 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1. 研究費補助等の実績

| 研究課題名  | 研究者氏名 | 所属部門  | 金額   | 補助元又委託元       |
|--|-------|-------|------|---------------|
| 網羅的16SrDNA多型性解析による潰瘍性大腸炎原因菌の同定：病変局所からの検索     | 岡安 熊  | 病院病理部 | 90万  | 補<br>日本学術振興機構 |
| 潰瘍性大腸炎関連癌での細胞接着因子の発現とDNAメチル化：浸潤能獲得機序の解明      | 三上 哲夫 | 病院病理部 | 273万 | 補<br>文部科学省    |
| 神経内分泌腫瘍としての特性を持つ肺がん（小細胞癌を除く）の標準的治療法の確立に関する研究 | 蔣 世旭  | 病院病理部 | 120万 | 補<br>厚生労働省    |
| 間質微細環境変化からみたp53非依存性炎症性発癌の解明及び発癌予測システムの構築     | 吉田 功  | 病院病理部 | 130万 | 補<br>文部科学省    |
| 胆汁遠心上清からのk-ras・p53変異検出による胆囊上皮超早期癌病変の同定       | 柳澤 信之 | 病院病理部 | 110万 | 補<br>文部科学省    |
| カザフスタン位線量慢性被爆患者の肺癌発生：ゲノム不安定性亢進関与の証明          | 原 敦子  | 病院病理部 | 160万 | 補<br>日本学術振興会  |
| 噴門部胃癌の発癌特異性：粘膜リモデリングと間質細胞における遺伝子異常の関与の証明     | 一戸 昌明 | 病院病理部 | 100万 | 補<br>文部科学省    |

病院病理部計 7件

- (注) 1. 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3. 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1. 研究費補助等の実績

| 研究課題名                      | 研究者氏名 | 所属部門    | 金額   | 補助元又委託元               |
|----------------------------|-------|---------|------|-----------------------|
| 関節リウマチ・骨粗鬆症の重症化防止治療開発研究    | 廣畠 俊成 | 膠原病感染内科 | 500万 | (補) 厚生労働省<br>委        |
| 免疫疾患の既存治療法の評価とその合併症に関する研究  | 廣畠 俊成 | 膠原病感染内科 | 120万 | (補) 厚生労働省<br>委        |
| 特発性好酸球增多症候群の実態調査           | 廣畠 俊成 | 膠原病感染内科 | 100万 | 補<br>(委) 東京都<br>福祉保健局 |
| 強皮症における病因解明と根治的治療法の開発      | 遠藤 平仁 | 膠原病感染内科 | 110万 | (補) 厚生労働省<br>委        |
| 免疫疾患の既存治療法の評価とその合併症に関する研究  | 田中 住明 | 膠原病感染内科 | 50万  | (補) 厚生労働省<br>委        |
| 混合性結合組織病の病態解明と治療法の確立に関する研究 | 岡田 純  | 膠原病感染内科 | 140万 | (補) 厚生労働省<br>委        |

膠原病感染内科計 6件総合計 51件

- [注] 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2. 論文発表等の実績

| 雑誌名                      | 題名  | 発表者氏名              | 所属部門 |
|--------------------------|---|--------------------|------|
| Colorectal Disease       | Tumor budding at invasive margins and outcome in colorectal cancer  | H. Kanazawa        | 外科   |
| Anticancer Research      | Surgical Resection of Stage IV Gastric Cancer and Prognosis   | Keishi Yamashita   | 外科   |
| World Journal of Surgery | Transfusion Alert for Patients with Curable Cancer  | Keishi Yamashita   | 外科   |
| Hepato-Gastroenterology  | Results of Follow-up Endoscopy in Patients who Underwent Proximal Gastrectomy with Jejunal Interposition for Gastric Cancer                                     | Shiro Kikuchi      | 外科   |
| Surg Today               | Gastrointestinal Stromal Tumor fo the Rectum Resected by Laparoscopic Surgery: Report of a Case   | Takatoshi Nakamura | 外科   |
| Hepato-Gastroenterology  | Comparison Between the Oncologic Outcome of Laparoscopic Surgery and Open Surgery for T1 and T2 Rectosigmoidal and Rectal Carcinoma: Matched Case-control Study | Takatoshi Nakamura | 外科   |

外科小計 6 件

| 雑誌名                                   | 題名   | 発表者氏名             | 所属部門 |
|---------------------------------------|--|-------------------|------|
| Hepato-Gastroenterology               | Irinotecan and S-1 Neoadjuvant Chemoradiation Therapy in Patients with Advanced Rectal Cancer  | Takeo Sato        | 外科   |
| Int J. Radiation Oncology Biol. Phys. | Phase I Trial of Neoadjuvant Preoperative Chemotherapy with S-1 and Irinotecan Plus Radiation in Patients with Locally Advanced Rectal Cancer                    | Takeo Sato        | 外科   |
| British Journal of Cancer             | Identification of the high-risk group for metastasis of gastric cancer cases by vascular endothelial growth factor receptor-1 overexpression in peripheral blood | Y Kosaka          | 外科   |
| International Journal of Oncology     | Clinical significance of the loss of MATS1 mRNA expression in colorectal cancer  | Yoshimasa Kosaka  | 外科   |
| Hepato-Gastroenterology               | Clinicopathologic Features of Crohn's Disease with Free Intestinal Perforation   | Youichiro Hattori | 外科   |
| 日本大腸肛門病学会雑誌                           | 腹腔鏡下に手術した腸重積で発症した肺癌肉腫小腸転移の1例   | 小野里航              | 外科   |

外科小計 6件

| 雑誌名             | 題名  | 発表者氏名       | 所属部門 |
|-----------------|---|-------------|------|
| 日本消化器外科<br>学会雑誌 | 腸重積で発症した回腸リンパ管腫の1例  | 小野里航        | 外科   |
| World J. Surg.  | Lymph node metastasis density and growth pattern as independent prognostic factors in advanced esophageal squamous cell carcinoma | Ooki A      | 外科   |
| Anticancer Res. | Surgical resection of stage IV gastric cancer and prognosis   | Yamashita K | 外科   |
|                 |   |             |      |

外科小計 3件

外科合計 15件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したものうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

| 雑誌名   | 題名   | 発表者氏名 | 所属部門   |
|---|--|-------|--------|
| Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery | Thermal coronary angiography in pediatric coronary artery bypass grafting.   | 宮本 隆司 | 心臓血管外科 |
| Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery | Miniaturized cardiopulmonary bypass system in neonates and small infants.  | 宮地 鑑  | 心臓血管外科 |
| 日本冠疾患学会雑誌                                       | 心室中隔穿孔に対する手術の工夫：二重パッチ閉鎖法と経右室アプローチについて  | 鳥井晋造  | 心臓血管外科 |
| 日本冠疾患学会雑誌                                       | 急性心筋梗塞の機械的合併症に対する急性期外科治療   | 小原邦義  | 心臓血管外科 |
| JOURNAL OF THORACIC AND CARDIOVASCULAR SURGERY  | Pediatric cardiac surgery without homologous blood transfusion, using a miniaturized bypass system in infants with lower body weight | 宮地 鑑  | 心臓血管外科 |
| 日本小児循環器学会雑誌                                     | 低充填量生体適合性人工心肺導入によるNorwood型手術成績の向上  | 宮地 鑑  | 心臓血管外科 |
| 日本周産期・新生児医学会雑誌                                  | 超低出生体重児の動脈管開存症に対して胸腔鏡下閉鎖術を施行した1例 本法最軽量児の治療経験   | 宮地 鑑  | 心臓血管外科 |
| 胸部外科  | MVR後に発生した心室中隔穿孔に対する経右房的修復術   | 小原邦義  | 心臓血管外科 |

心臓血管外科計 8件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したものうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2. 論文発表等の実績

| 雑誌名                | 題名   | 発表者氏名   | 所属部門 |
|--------------------|--|---|------|
| J Neurol Sci       | Regional cerebral blood flow and cerebrovascular reactivity during chronic stage of stroke-like episodes in MELAS-implication of neurovascular cellular mechanism. | Iizuka T,<br>Sakai F,<br>Ide T,<br>Miyakawa S,<br>Sato M,<br>Yoshii S,  | 神経内科 |
| Intern Med         | Botulinum toxin type A for migraine prophylaxis in the Japanese population: an open-label prospective trial  | Suzuki K,<br>Iizuka T,<br>Sakai F,  | 神経内科 |
| Intern Med         | Multi-center randomized control trial of etizolam plus NSAID combination for tension-type headache.  | Hirakata K,<br>Tastumoto M, Araki N, Takeshima T,<br>Igarashi H, Shibata K, Sakai F   | 神経内科 |
| Curr Med Res Opin  | The efficacy of goshuyuto, a typical Kampo(Japanese herbal medicine)formula, in preventing episodes of headache.   | Odaguchi H,<br>Wakasugi A, Ito H,<br>Shoda H, Gono Y,<br>Sakai F, Hamada T  | 神経内科 |
| J Headache Pain    | The Global Campaign(GC) to Reduce the Burden of Headache Worldwide. The International Team for Specialist Education(ITSE).   | Martelletti P,<br>Haimanot RT, Lainez MJ, Rapoport AM,<br>Ravishankar K,<br>Sakai F, Silberstein SD, Vincent M,<br>Steiner Tj | 神経内科 |
| Rinsho Shinkeigaku | Mechanism based prevention and treatment of migraine   | Sakai F.  | 神経内科 |

神経内科計 6 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2. 論文発表等の実績

| 雑誌名   | 題名  | 発表者氏名  | 所属部門 |
|---|---|--|------|
| 骨折、29(3):521~523, 2007                            | 重度骨欠損と弛みのある人工股関節システム周囲骨折に対するシステムと同種骨の複合移植片を用いた再建法。<br>—Vancouver分類type B3の再建法—  | 高平尚伸<br>糸満盛憲<br>片野素昭<br>高崎純孝<br>内山勝文<br>成瀬康治 | 整形外科 |
| Arch Orthop Trauma Surg, 127:753~757, 2007        | Arthroscopic evaluation after surgical repair of intercondylar fractures.   | 朴晃、占部憲<br>成瀬康治<br>相川淳、藤田護、糸満盛憲               | 整形外科 |
| Journal of Orthopaedic Surgery, 15(2):1~136, 2007 | Immediate interlocking nailing versus external fixation followed by delayed Interlocking nailing for Gustilo type III B open tibial fractures.                          | 朴晃正、内野正隆、中村光伸、上野正喜、糸満盛憲、横山一彦、鈴木卓             | 整形外科 |
| J Orthop Sci, 12:484~492, 2007 Sep                | Comparison of the cytokine-induced migratory response between primary and subcultured populations of rat mesenchymal bone marrow cells.                                 | 内田健太<br>占部憲、成瀬康治、氏平政伸、馬淵清資<br>糸満盛憲           | 整形外科 |
| J Orthop Trauma, 21(7):499~502, 2007 Aug          | Segmental bony defect of the proximal phalanx in the great toe reconstructed by free vascularized bone graft from the supracondylar region of the femur: a case report. | 中村光伸<br>糸満盛憲<br>横山一彦                         | 整形外科 |
| J Orthop Sci, 12(6):520~525, 2007 Nov.            | Current trends bone grafting and the issue of banked bone allografts based on the fourth nationwide survey of bone grafting status from 2000 to 2004.                   | 占部憲<br>糸満盛憲<br>塗山正宏                          | 整形外科 |

整形外科計 6件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2. 論文発表等の実績

| 雑誌名                  | 題名   | 発表者氏名 | 所属部門  |
|----------------------|--|-------|-------|
| 耳鼻咽喉科臨床              | 頭頸部腫瘍患者のMRSA感染症  | 浜田幸宏  | 薬剤部   |
| Equilibrium Research | メニエール病のイソバイト療法：投与法の検討  | 徳増厚二  | 耳鼻咽喉科 |
| 日本耳鼻咽喉科感染症研究会会誌      | 扁桃周囲膿瘍の臨床経過  | 鈴木立俊  | 耳鼻咽喉科 |
| 日本耳鼻咽喉科感染症研究会会誌      | Wegener肉芽腫症の経過中に粟粒結核を併発した1症例   | 落合 敦  | 耳鼻咽喉科 |
| Anticancer Research  | Effectiveness of Concurrent Radiation Therapy with UFT or TS-1 for T2N0 Glottic in Japan           | 新部 譲  | 放射線科  |
| 日本耳鼻学会<br>神奈川県地方部会報  | 急性低音障害感音難聴とメニエール病  | 長沼英明  | 耳鼻咽喉科 |
| 喉頭                   | ポリープ様声帯に片側反回神経麻痺が合併したことで呼吸困難を來した1例   | 正来 隆  | 耳鼻咽喉科 |
| Audiology Japan      | 軽度・中等度難聴児の補聴器装用と言語およびコミュニケーションの指導—新生児聴覚スクリーニング検査導入前出生児—  | 井上理恵  | 耳鼻咽喉科 |
| 頭頸部癌                 | 喉頭亜全摘術SCL-CHEPパス導入の効果と課題   | 中山明仁  | 耳鼻咽喉科 |
| 耳鼻咽喉科・頭頸部外科          | 外耳道肉腫の1例   | 和田 昌興 | 耳鼻咽喉科 |
| LARYNGOSCOPE         | Narrow band imaging for Detecting Superficial Oral Squamous Cell Carcinoma : A report of Two Cases | 堅田親利  | 消化器内科 |

小計 11件

|                          |  |       |       |
|--------------------------|--|-------|-------|
| Kitasato Medical Journal | Perennial hypersensitivity of the nasal mucosa to cold saline stimuli in patients with seasonal allergic rhinitis  | 井口芳明  | 耳鼻咽喉科 |
| 診断と治療                    | 季節性アレルギー性鼻炎に対する抗ヒスタミン薬の血中濃度最低時間帯での有効性に関する検討：1日2回投与薬の比較   | 鈴木立俊  | 耳鼻咽喉科 |
| 頭頸部癌                     | Narrow Band Imaging(NBI)内視鏡アシスト下に經口腔法切除した中咽頭癌の2症例  | 竹田昌彦  | 耳鼻咽喉科 |
| 北里医学                     | 喉頭亜全摘術Supracricoid laryngectomy with cricohyoidoepiglottopexy (SCL-CHEP)による音声・嚥下機能の温存  | 中山明仁  | 耳鼻咽喉科 |
| Audiology Japan          | 中等度難聴の早期診断・早期療育における新生児聴覚スクリーニング検査の有用性  | 井上理恵  | 耳鼻咽喉科 |
| 日本消化器内視鏡学会雑誌             | 頭頸部領域における内視鏡観察のコツ  | 堅田親利  | 消化器内科 |
| 医学書院                     | 術後肺血栓塞栓症の1例  | 和田昌興  | 耳鼻咽喉科 |
| Auris Nasus Larynx       | Supracricoid laryngectomy with cricohyoidoepiglottopexy or cricohyoido-pexy : Experience on 32 patients  | 中山明仁  | 耳鼻咽喉科 |
| 日本鼻科学会会報                 | Objective Evaluation of the Color of the Inferior Turbinate in Cases of Japanese Cedar Pollinosis : A Search for Possible Preseasonal Index of the Severity of the Disease | 佐藤賢太郎 | 耳鼻咽喉科 |

小計 9 件

耳鼻咽喉科他計 20 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2. 論文発表等の実績

| 雑誌名                    | 題名  | 発表者氏名   | 所属部門                             |
|------------------------|---|---|----------------------------------|
| J Obstet Gynaecol Res. | Sudden fetal hemorrhage from umbilical cord ulcer associated with congenital intestinal atresia                               | Miyachi K <sup>1</sup> ,<br>Kikuchi A <sup>1</sup> ,<br>狐崎雅子 <sup>1,2</sup> ,<br>Sunagawa S <sup>1</sup> ,<br>Hiroma T <sup>1</sup> ,<br>Takagi K <sup>1</sup> ,<br>Ogiso Y <sup>1</sup> ,<br>Nakamura T <sup>1</sup> | 児                                |
| Circulation journal    | Effect of Japanese diagnosis criteria revision in Kawasaki disease and cardiovascular outcome.                                | Muta H <sup>1</sup> , 石井正浩 <sup>2</sup> , Iemura M <sup>1</sup> , Suda K <sup>1</sup> , Nakamura Y <sup>3</sup> , Matsuishi T <sup>1</sup>  | 児                                |
| Pediatric Cardiology   | Warfarin therapy for giant aneurysm prevents myocardial infarction in Kawasaki disease.                                       | Sugahara Y <sup>1</sup> , 石井正浩 <sup>2</sup> , Muta H <sup>1</sup> , Iemura M <sup>1</sup> , Matsuishi T <sup>1</sup> , Kato H <sup>1</sup>  | 児                                |
| Journal of Nephrology  | Similarities between N-glycan glycoform of tonsillar IgA1 and that of aberrant IgA1 abundant in IgA nephropathy patient serum | 岩波直美 <sup>1</sup> , 岩瀬仁勇 <sup>2</sup> , Takahashi N, Kato K, Itoh A, Takatani T, Makita S, Kobayashi Y, Okamoto M, 中村信也 <sup>1</sup> , Hiki Y, 石井正浩 <sup>1</sup>  | <sup>1</sup> 児. <sup>2</sup> 生化学 |
| 成長科学協会研究年報             | 先天性甲状腺機能低下症ラットrdwにおける脳幹組織中の $\alpha$ -tubulin mRNAの発現の検討  | 柴山啓子 <sup>1</sup> , 横田行史 <sup>1</sup>   | 児                                |

小計 5件

|                 |   |  |                                    |
|-----------------|---|--|------------------------------------|
| TDM研究           | バルブロ酸徐放性製剤の母集団薬物動態解析－徐放性製剤3種の比較－                        | 木村公美 <sup>1</sup> , 篠崎公一 <sup>1</sup> , 上原亜紀 <sup>1</sup> , 佐古兼一 <sup>1</sup> , 岩崎俊之 <sup>2</sup>  | <sup>1</sup> 薬学部, <sup>2</sup> 児   |
| 日本小児循環器学会雑誌     | 低充填量生体適合性人工心肺導入によるNoodwood型手術成績の向上                      | 宮地 鑑 <sup>1</sup> , 宮本隆司 <sup>1</sup> , 井上信幸 <sup>1</sup> , 中畠弥生 <sup>2</sup> , 木村純人 <sup>2</sup> , 石井正浩 <sup>2</sup>  | <sup>1</sup> 心臓血管外, <sup>2</sup> 児 |
| 日本マス・スクリーニング学会誌 | TSH-Free T4同時測定による新生児マス・スクリーニングで発見された重症視床下部性甲状腺機能低下症の検討 | 柴山啓子 <sup>1</sup> , 松浦信夫 <sup>2</sup> , 横田行史 <sup>1</sup> , 原田正平 <sup>3</sup> , 福士 勝 <sup>4</sup> , 本間かおり <sup>4</sup> , 石井正浩 <sup>1</sup>   | 児                                  |
| 日本小児アレルギー学会誌    | 小児救急(時間外)診療における即時型食物アレルギー患児の臨床的検討                       | 磯崎 淳 <sup>1</sup> , 小川倫史 <sup>2</sup> , 野間剛 <sup>2</sup> , 川野 豊 <sup>1</sup> , 中谷陽一 <sup>1</sup>   | 児                                  |
| 周産期学シンポジウム      | 周産期の輸血療法をめぐって 胎児・新生児・胎児診断された外科疾患における自己血(臍帯血)貯血の有用性      | 宮下 進 <sup>1</sup> , 中村友彦 <sup>1</sup> , 狐崎雅子 <sup>1, 2</sup> , 三ツ橋偉子 <sup>1</sup> , 横山晃子 <sup>1</sup> , 栗原伸芳 <sup>1</sup> , 佐野葉子 <sup>1</sup> , 廣間武彦 <sup>1</sup> , 依田達也 <sup>1</sup> , 菊池昭彦 <sup>1</sup> , 百瀬芳隆 <sup>1</sup> , 石井栄三郎 <sup>1</sup> | 児                                  |

小計 5件

小児科他合計 10件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものと記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2. 論文発表等の実績

| 雑誌名  | 題名   | 発表者氏名                 | 所属部門        |
|--|--|-----------------------|-------------|
| Journal of Human Genetics                                      | No evidence for significant association between GABA receptor genes in chromosome 15q11-q13 and autism in a Japanese population. | 山本賢司                  | 精神科学        |
| 神奈川医学会雑誌   | 大学病院における精神科のコンサルテーション・リエゾン・サービスについて  | 山本賢司、                 | 精神科学        |
| 精神科治療学   | 精神科治療薬ごとの副作用 プロムワレリル尿素   | 宮地伸吾、<br>山本賢司、<br>宮岡等 | 精神科学        |
| 精神科治療学   | 精神科治療薬ごとの副作用 抗ヒスタミン薬   | 宮地伸吾、<br>山本賢司、<br>宮岡等 | 精神科学        |
| 精神医学   | せん妄に対する「サイセレ点滴 (haloperidolとflunitrazepamの混注による点滴静注)」の使用について   | 宮地伸吾、<br>山本賢司、<br>宮岡等 | 精神科学        |
| 臨床精神医学   | チーム医療によるコンサルテーション・リエゾン精神医療—リエゾンナースの役割—   | 白井教子、<br>山本賢司、<br>宮岡等 | 看護部<br>精神科学 |
| Progress in Neuro-Psychopharmacology and Biological Psychiatry | No association between the Neuronal Penetraxin II gene polymorphism and autism   | 山本賢司                  | 精神科学        |
| Journal of Clinical Psychiatry                                 | Decreased Lipoprotein Lipase as a Risk Factor for Atypical Neuroleptic-Induced Hypertriglyceridemia                              | 山本賢司、<br>宮岡等          | 精神科学        |
| 現代のエスプリ  | 緩和ケア医療における「怒り」の問題とその対応   | 山本賢司                  | 精神科学        |

精神神経科他計 9件

- 注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したものの中、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2. 論文発表等の実績

| 雑誌名                                    | 題名   | 発表者氏名  | 所属部門 |
|--|--|--|------|
| Recent Advances in Endourology         | Recent advances and new insight of laparoscopic radical prostatectomy: experience from Kitasato University.        | Masatsugu Iwamura, Shiro Baba  | 泌尿器科 |
| Jpn Clin Oncol                         | Gemcitabine and paclitaxel chemotherapy as a second-line treatment for advanced or metastatic urothelial carcinoma | 松本和将, 入江啓, 佐藤威文, 岡崎美代子, 岩村正嗣, 馬場志郎   | 泌尿器科 |
| American Journal of clinical Pathology | Significance of lymphatic invasion and proliferation on regional lymph node metastasis in renal cell carcinoma.    | Ishikawa, Y., Aida, S., Tamai, S., Akasaka, Y., Kiguchi, H., Akishima, Y., Hayakawa, M., Soh, S., Ito, K., Kimura, M., Ishiguro, S., Nishimura, C., Kamata, I., Shimokawa, R. and Ishii, T | 泌尿器科 |
| UROLOGY                                | Prognostic impact of peripheral fat or adrenal involvement in patients with pT3b renal cell carcinoma.             | 藤田哲夫、岩村正嗣、柳沢信之、村本将俊、平山貴博、岡安勲、馬場志郎  | 泌尿器科 |
| Urology                                | Expression of S100A2 and S100A4 predicts disease progression and patient survival in bladder cancer.               | Matsumoto K, Irie A, Satoh T, Ishii J, Iwabuchi K, Iwamura M, Egawa S, Baba S.   | 泌尿器科 |
| Audio-Visual Journal of JUA            | 腹腔鏡下腹腔内精巣固定術についての検討<br>Laparoscopic management of the intra-abdominal testis                                       | 宋成浩、岩村正嗣、土田繭美、西盛宏、馬場志郎、遠藤忠雄  | 泌尿器科 |
| 泌尿器科紀要                                 | Purple urine bag syndrome の臨床像に関する検討   | 津村秀康, 佐藤威文, 黒坂真二, 藤田哲夫, 松本和将, 馬場志郎   | 泌尿器科 |

小計 7件

|           |   |  |      |
|-----------|---|--|------|
| 北里医学      | 難治性胚細胞性腫瘍の集学的治療法-腰椎に骨転移をきたした胚細胞性腫瘍の3症例-   | 土橋正人、宋成浩、池田勝臣、土田繩美、藤田哲夫、松本和将、佐藤威文、岩村正嗣、吉田一成、馬場志郎。          | 泌尿器科 |
| 日本泌尿器科学雑誌 | 前立腺癌のアンドロゲン除去療法におけるビスフォスフォネートの臨床的意義   | 木村将貴、佐藤威文、岡崎美代子、田畠健一、坪井俊樹、兵藤透、横山英二、松本和将、宋成浩、岩村正嗣、早川和重、馬場志郎 | 泌尿器科 |
| 臨床泌尿器科    | ここが聞きたい 泌尿器科処置・手術とトラブル対処法。Ⅱ 泌尿器科手術 A.体外衝撃波碎石術(ESWL)。「体外衝撃波碎石術(ESWL)を施工した腎結石の患者です。術後被膜下血腫を認めました。どのように対処すればよいでしょうか」 | 荒川孝、藤崎明、木村将貴、服部一紀  | 泌尿器科 |
| 泌尿器外科     | 初回生検陰性例に対する経会陰的テンプレートガイド下前立腺22箇所生検:癌局在部位の検討   | 坪井俊樹、佐藤威文、松本和将、顕川晋、田畠健一、木村将貴、西盛宏、大草洋、柳沢信之、岡安勲、馬場志郎         | 泌尿器科 |

小計 4 件

泌尿器科計 11 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したものうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2. 論文発表等の実績

| 雑誌名   | 題名  | 発表者氏名   | 所属部門 |
|---|---|---|------|
| <i>Journal of Investigative Dermatology</i> 127 (1), p. 11-15, 2007 | 'Chemotherapy targets the hair-follicle vascular network but not the stem cells'  | <u>Yasuyuki</u><br><u>Amoh*</u>                       | 皮膚科  |
| <i>BioTechniques</i> 42 (3), p. 294-298, 2007                       | GFP-expressing vascularization of Gelfoam® as a rapid <i>in vivo</i> assay of angiogenesis stimulators and inhibitors'                            | <u>Yasuyuki</u><br><u>Amoh*</u><br>Kensei<br>Katsuoka | 皮膚科  |
| <i>Journal of Surgical Research</i> 133 (2), p. 164-169, 2007       | Dual-color imaging of angiogenesis and its inhibition in bone and soft tissue sarcoma.'   | <u>Yasuyuki</u><br><u>Amoh*</u>                       | 皮膚科  |
| <i>Anticancer Research</i> 27 (2), p. 713-718, 2007                 | 'The camptothecin derivative CPT-11 inhibits angiogenesis in a dual-color imageable orthotopic metastatic nude-mouse model of human colon cancer' | <u>Yasuyuki</u><br><u>Amoh*</u>                       | 皮膚科  |
| 日本皮膚科学会誌; Vol. 117, No. 11, p. 1727-1735, 2007                      | 頭部脈管肉腫における血管新生因子の役割、  | 天羽康之<br>浜田祐子<br>増澤幹男<br>勝岡憲生                          | 皮膚科  |

皮膚科計 5件

(注)

- 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2. 論文発表等の実績

| 雑誌名   | 題名  | 発表者氏名   | 所属部門  |
|---|---|---|-------|
| AMERICAN JOURNAL<br>OF CLINICAL<br>PATHOLOGY<br>Volume: 127<br>Issue: 3<br>Pages: 366-373<br>Published: MAR<br>2007 | Low frequency of promoter<br>methylation of 0-6-methylguanine<br>DNA methyltransferase and hMLH1<br>in ulcerative colitis-associated<br>tumors - Comparison with sporadic<br>colonic tumors<br>Author(s): | Mikami T,<br>Yoshida T,<br>Numata Y,<br>et al.    | 病院病理部 |
| JOURNAL OF<br>GASTROENTEROLOGY<br>Volume: 41<br>Issue: 12<br>Pages: 1186-1196<br>Published: DEC<br>2006             | Early genetic instability of both<br>epithelial and stromal cells in<br>esophageal squamous cell<br>carcinomas, contrasted with<br>Barrett's adenocarcinomas  | Shiraishi H,<br>Mikami T,<br>Yoshida T,<br>et al. | 病院病理部 |
| CARCINOGENESIS<br>Volume: 28<br>Issue: 9<br>Pages: 1885-1892<br>Published: SEP<br>2007                              | A functional role of Cdx2 in<br>beta-catenin signaling during<br>transdifferentiation in<br>endometrial carcinomas  | Saegusa M,<br>Hashimura M,<br>Kuwata T, et<br>al. | 病院病理部 |
| AMERICAN JOURNAL<br>OF CLINICAL<br>PATHOLOGY<br>Volume: 128<br>Issue: 5<br>Pages: 746-752<br>Published: NOV<br>2007 | Background submucosal cysts in<br>early gastric cancer cases have<br>unique clinicopathologic features<br>suggestive of postgastritis and<br>significant smoking association                              | Ichinoe M,<br>Mikami T,<br>Hara A, et<br>al.      | 病院病理部 |

小計 4 件

|   |   |  |       |
|---|---|--|-------|
| JOURNAL OF PATHOLOGY<br>Volume: 213<br>Issue: 1<br>Pages: 35-45<br>Published: SEP 2007  | Crosstalk between NF-kappa B/p65 and beta-catenin/TCF4/p300 signalling pathway through alterations in GSK-3 beta expression during trans-differentiation of endometrial carcinoma cells | Saegusa M, Hashimura M, Kuwata T, et al. | 病院病理部 |
| PATHOLOGY INTERNATIONAL<br>Volume: 57<br>Issue: 5<br>Pages: 260-267<br>Published: MAY 2007                                      | Midkine expression in colorectal tumors: Correlation with Ki-67 labeling in sporadic, but not ulcerative colitis-associated ones  | Tokuyama W, Mikami T, Fujiwara M, et al. | 病院病理部 |
| JOURNAL OF CLINICAL PATHOLOGY<br>Volume: 61<br>Issue: 3<br>Pages: 287-292<br>Published: MAR 2008                                | Diagnostic and prognostic significance of cyclin A expression in low-grade astrocytomas: comparison with astrogliosis and high-grade tumours  | Hara A, Saegusa M, Ichinoe M, et al.     | 病院病理部 |
| JOURNAL OF STEROID BIOCHEMISTRY AND MOLECULAR BIOLOGY<br>Volume: 107<br>Issue: 3-5<br>Pages: 163-171<br>Published: NOV-DEC 2007 | Stimulatory effect of estrogen on the growth of endometrial cancer cells is regulated by cell-cycle regulators  | Watanabe J, Kamata Y, Seo N, et al.      | 病院病理部 |

小計 4 件

病院病理部 8 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2. 論文発表等の実績

| 雑誌名                                 | 題名   | 発表者氏名      | 所属部門    |
|-------------------------------------|--|------------|---------|
| Arthritis Rheum, 56: 386-387, 2007. | Specificity of enzyme-linked immunosorbent assay for IgG anti-NR2 glutamate receptor antibodies: Comment on the concise communication by Yoshio et al.                                   | Hirohata S | 膠原病感染内科 |
| Lupus, 16: 67-69, 2007.             | A serological switching from anti-dsDNA to anti-Sm antibodies coincided with severe clinical manifestations of systemic lupus erythematosus (hemophagocytosis, profundus and psychosis). | Hirohata S | 膠原病感染内科 |
| Mod Rheumatol, 17:81-2, 2007.       | HLA-B51 and cigarette smoking as risk factors for chronic progressive neurological manifestations in Behcet's disease.   | Hirohata S | 膠原病感染内科 |
| Arthritis Res Ther, 9:R44, 2007.    | Association of cerebrospinal fluid anti-ribosomal P protein antibodies with diffuse psychiatric/neuropsychological syndromes in systemic lupus erythematosus.                            | Hirohata S | 膠原病感染内科 |
| J Rheumatol, 34 :2144-53, 2007      | Antiinflammatory mediator lipoxin A4 and its receptor in synovitis of patients with rheumatoid arthritis.  | Hirohata S | 膠原病感染内科 |
| Arthritis Rheum, 56: 3509, 2007.    | Correct citation regarding interleukin-6 levels in cerebrospinal fluid from patients with neuropsychiatric lupus: comment on the article by Fragoso-Loyo et al.                          | Hirohata S | 膠原病感染内科 |

小計 6 件

## 2. 論文発表等の実績

| 雑誌名                            | 題名  | 発表者氏名  | 所属部門    |
|--------------------------------|---|--------|---------|
| J Rheumatol, 34 :2144-53, 2007 | Antiinflammatory mediator lipoxin A4 and its receptor in synovitis of patients with rheumatoid arthritis.   | Endo H | 膠原病感染内科 |
| 治療、89: 292-296, 2007.          | プライマリ・ケア医のための関節リウマチの診かた。関節リウマチの治療：そのほかの抗リウマチ薬の使い方と副作用（金製剤、D-ペニシラミン、ブシラミン、サラゾスルファピリジン）。  | 廣畠 俊成  | 膠原病感染内科 |
| 総合臨床、56: 491-496, 2007.        | 膠原病診療のA to Z. 膜原病のプライマリー・ケア－早期診断と治療指針. 全身性エリテマトーデス.   | 廣畠 俊成  | 膠原病感染内科 |
| 日本臨床、65: 1202-1208, 2007.      | 特集：生物学的製剤の免疫薬理と臨床 完全ヒト化抗 TNF- $\alpha$ 抗体（アダリムマブ、ゴリムマブ）.  | 廣畠 俊成  | 膠原病感染内科 |
| 分子リウマチ, 4: 271, 2007           | Journal Club: An essential role of NF- $\kappa$ B in the “tumor-like” phenotype of arthritic synoviocytes. Li X et al: Proc Natl Acad Sci USA 103: 17432-17437, 2006. | 廣畠 俊成  | 膠原病感染内科 |
| リウマチ科、38: 277-282, 2007.       | SLE 初診時における精神神経症状：国際研究の結果.  | 廣畠 俊成  | 膠原病感染内科 |

小計 6 件

## 2. 論文発表等の実績

| 雑誌名  | 題名   | 発表者氏名 | 所属部門    |
|--|--|-------|---------|
| 日内会誌、<br>96:2220-2225,<br>2007.              | 特集 膜原病：診断と治療の進歩<br>II. 診断と治療の実際 10. Behcet 病。                        | 廣畠 俊成 | 膜原病感染内科 |
| 炎症と免疫<br>16:93-96,<br>2007.                  | 免疫抑制薬の臨床応用実践論 第13回 ベーチェット病。  | 廣畠 俊成 | 膜原病感染内科 |
| ベーチェット<br>病。からだの<br>科学 256:85-<br>89, 2007.  | リウマチ・膜原病のすべて Part2 リウマチ・膜原病のいろいろ：                                    | 廣畠 俊成 | 膜原病感染内科 |
| 骨・関節・靭<br>帯 20: 1109-<br>1114, 2007          | [整形外科医のための標準薬物治療の<br>基礎知識] ブシラミンーまだまだ存<br>在価値がある traditional DMARD – | 廣畠 俊成 | 膜原病感染内科 |
| 「最新整形外<br>科学大系<br>No.19 関節リ<br>ウマチと類縁<br>疾患」 | 4章 関節リウマチ 鑑別すべき膜原<br>病   | 廣畠 俊成 | 膜原病感染内科 |
| 「内科学（第9<br>版）」                               | 10. リウマチ性疾患およびアレルギー<br>性疾患 I. リウマチ性疾患 10-11.<br>Behcet病              | 廣畠 俊成 | 膜原病感染内科 |

小計 6件

## 2. 論文発表等の実績

| 雑誌名  | 題名  | 発表者氏名   | 所属部門    |
|--|---|---------|---------|
| Intern Med<br>45: 669-670,<br>2006                     | Autoimmune hemolytic Anemia in Primary Sjogren's Syndrome.  | Okada J | 膠原病感染内科 |
| Arthritis Res<br>The 8 : R104<br>2006.                 | NOS2 Polymorphisms associated with susceptibility to pulmonary arterial hypertension with systemic sclerosis : contribution to the transcriptional activity.                                      | Okada J | 膠原病感染内科 |
| Mod Rheumatol<br>2006; 16(6) :<br>389-94.              | Coexistence of nodular regenerative hyperplasia of the liver and pulmonary arterial hypertension in patients with connective tissue diseases: report of three cases and review of the literature. | Okada J | 膠原病感染内科 |
| Intern Med<br>2006; 45(10) :<br>669-70.                | Autoimmune hemolytic anemia in primary Sjogren's syndrome.  | Okada J | 膠原病感染内科 |
| Nippon Naika Gakkai Zasshi<br>2006; 95(9) :<br>1881-7. | Pathophysiology of and therapy for mixed connective tissue disease: recent progress on the study.   | Okada J | 膠原病感染内科 |
| Mod Rheumatol<br>17 :464-9,<br>2007.                   | Efficacy and safety of mizoribine for the treatment of Sjögren's syndrome: a multicenter open-label clinical trial.   | Okada J | 膠原病感染内科 |

小計 6 件

## 2. 論文発表等の実績

| 雑誌名  | 題名  | 発表者氏名  | 所属部門    |
|--|---|--------|---------|
| 医学と薬学<br>58. 559-564,<br>2007.             | ユニキャップエリアによる抗 Sm 抗体測定の臨床的有用性の検討。  | 岡田 純   | 膠原病感染内科 |
| Biomed Pharmacotherapy, ;61:81-5.<br>2007. | Corticosteroids up-regulate lipoxin A4 receptor (ALX) expression in Neutrophil :  | Endo H | 膠原病感染内科 |
| Biomed Pharmacotherapy, 61:222-228. 2007.  | SKL-2841, a dual antagonist of MCP-1 and MIP-1 beta, prevents bleomycin-induced skin sclerosis in mice.   | Endo H | 膠原病感染内科 |
| J Rheumatol. ;34:2144-53. 2007.            | Antiinflammatory mediator lipoxin A <sub>4</sub> and its receptor in synovitis of patients with rheumatoid arthritis.   | Endo H | 膠原病感染内科 |
| Mod Rheumatol 17:185-90. 2007              | Laser-mediated microdissection for analysis of gene expression in synovial tissue.  | Endo H | 膠原病感染内科 |
| Rheumatol Internal, 28:673-6. 2008.        | Comparison of trimethoprim-sulfamethoxazole and aerosolized pentamidine for primary prophylaxis of <i>Pneumocystis jiroveci</i> pneumonia in immunocompromised patients with connective tissue disease. | Endo H | 膠原病感染内科 |

小計 6 件

## 2. 論文発表等の実績

| 雑誌名                                     | 題名  | 発表者氏名    | 所属部門    |
|---|---|----------|---------|
| 日本臨床リウマチ学会雑誌<br>19/4, 270-276, 2007.    | 膠原病合併重症消化管障害の診断と治療（特に強皮症に合併した重症腸管障害の長期管理）   | Endo H   | 膠原病感染内科 |
| Rheumatol Internal, 28:6<br>73-6. 2008. | Comparison of trimethoprim-sulfamethoxazole and aerosolized pentamidine for primary prophylaxis of <i>Pneumocystis jiroveci</i> pneumonia in immunocompromised patients with connective tissue disease. | Tanaka S | 膠原病感染内科 |
| 臨床リウマチ<br>(別冊) X<br>19 (4) : 241-246    | 血管炎によると思われる中枢神経病変を発症した全身性エリテマトーデスの1例  | 田中 住明    | 膠原病感染内科 |
|   |   |          |         |

小計 3 件膠原病感染内科計 3 件総合計 131 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したものうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

|         |           |
|---------|-----------|
| 管理責任者氏名 | 病院長 藤井 清孝 |
| 管理担当者氏名 | 事務部長 高橋 修 |

|  |   | 保管場所                    | 分類方法   |
|--|---|-------------------------|--|
| 診療に関する諸記録<br>病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書 |   | 事務部<br>医事課<br>診療情報管理課   | 初回受診時に、1患者1番号制で受診登録番号(患者番号7桁)を設定。<br>中間位桁分類法を採用し、保管している。 |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録   | 従業者数を明らかにする帳簿                           | 職員課                     |  |
|  | 高度の医療の提供の実績                             | 医事課                     |  |
|  | 高度の医療技術の開発及び評価の実績                       | 医事課                     |  |
|  | 高度の医療の研修の実績                             | 職員課                     |  |
|  | 閲覧実績                                    | 診療情報管理課                 |  |
|  | 紹介患者に対する医療提供の実績                         | 患者支援センター部               |  |
|  | 入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿               | 医事課<br>薬剤部              |  |
|  | 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況                   | 医療安全管理室                 |  |
|  | 専任の院内感染対策を行う者の配置状況                      | 感染管理室                   |  |
|  | 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況                     | 医療安全管理室                 |  |
| 確規則の第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制   | 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況      | 患者支援センター部<br>管理課<br>医事課 |  |
|  | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況                    | 医療安全管理室                 |  |
|  | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況                   | 医療安全管理室                 |  |
|  | 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況                  | 医療安全管理室                 |  |
|  | 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況 | 医療安全管理室                 |  |
|  |   |                         |  |
|  |   |                         |  |

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

|                  |                       |  | 保管場所    | 分類方法 |
|------------------|-----------------------|--|---------|------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況 | 院内感染のための指針の策定状況                                      | 感染管理室   |      |
|                  |                       | 院内感染対策のための委員会の開催状況                                   | 感染管理室   |      |
|                  |                       | 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況                             | 感染管理室   |      |
|                  |                       | 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の実施状況             | 感染管理室   |      |
|                  |                       | 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況                           | 薬剤部     |      |
|                  |                       | 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況                           | 薬剤部     |      |
|                  |                       | 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況           | 薬剤部     |      |
|                  |                       | 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況   | 薬剤部     |      |
|                  |                       | 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況                                | MEセンター部 |      |
|                  |                       | 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況                          | MEセンター部 |      |
|                  |                       | 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況                        | MEセンター部 |      |
|                  |                       | 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況 | MEセンター部 |      |

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

|               |            |
|---------------|------------|
| 閲 覧 責 任 者 氏 名 | 事務部長 高橋 修  |
| 閲 覧 担 当 者 氏 名 | 管理課長 熊澤 豊彦 |
| 閲覧の求めに応じる場所   | 管理課        |

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

| 前 年 度 の 総 閲 覧 件 数 |             | 延 0 件 |
|-------------------|-------------|-------|
| 閲 覧 者 別           | 医 師         | 延 0 件 |
|                   | 歯 科 医 師     | 延 0 件 |
|                   | 国           | 延 0 件 |
|                   | 地 方 公 共 団 体 | 延 0 件 |

○紹介患者に対する医療提供の実績

| 紹 介 率            | 73. 5%                | 算 定 期 間 | 平成19年4月1日～平成20年3月31日 |
|------------------|-----------------------|---------|----------------------|
| 算<br>出<br>根<br>拠 | A:紹介患者の数              |         | 25,831人              |
|                  | B:他の病院又は診療所に紹介した患者の数  |         | 14, 586人             |
|                  | C:救急用自動車によって搬入された患者の数 |         | 3, 209人              |
|                  | D:初診の患者の数             |         | 44, 800人             |

(注)1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延べ数を記入すること。

(様式第13-2)

### 規則第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制の確保状況

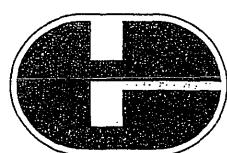
|   |            |
|---|------------|
| ① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況   | (有) (1名)・無 |
| ② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況  | (有) (1名)・無 |
| ③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況   | (有) 無      |
| ・ 所属職員： 専任（4）名 兼任（1）名<br>・ 活動の主な内容：<br>医療の安全性の向上に関する事項（診療録や看護記録への記載内容の確認と指導、事故発生時の対応状況についての確認と指導）<br>安全管理に係る教育・研修の企画・運営に関する事項<br>医療事故及びインシデントの収集・調査・分析・フィードバックに関する事項<br>リスクマネジャーとの連絡調整に関する事項<br>医療安全マニュアル・医療安全ハンドブックの編集・発行に関する事項<br>リスクマネジメント委員会の運営に関する事項<br>医療訴訟、和解に係る事務に関する事項<br>その他、医療事故の防止、医療安全管理に関する事項 |            |
| ④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況  | (有) 無      |
| ⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況  | (有) 無      |
| ・ 指針の主な内容：<br>安全管理に関する基本的考え方（基本理念、基本姿勢）<br>安全管理のための委員会、組織に関する基本的事項<br>安全管理のための職員研修に関する基本方針<br>医療安全の確保を目的とした改善のための基本方針<br>医療事故発生時の対応に関する基本方針<br>医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針<br>患者からの相談への対応に関する基本方針   |            |
| ⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況   | 年 12回      |
| ・ 活動の主な内容：<br>医療事故防止活動全般に関する事項<br>医療事故発生に伴う対応に関する事項<br>医療事故調査によるフィードバックに関する事項   |            |
| ⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況  | 年 50回      |
| ・ 研修の主な内容<br>医療安全講演会（リスクマネジメント2回・院内感染防止対策2回。計4回開催）<br>新規採用者研修（研修医・コメディカルのオリエンテーション時の研修。4月実施）<br>ME機器取扱い講習会（4月実施）<br>看護師フォローアップ研修会時の研修<br>その他（KYTセミナー、薬品セミナー等）   |            |
| ⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況   |            |
| ・ 医療機関内における事故報告等の整備<br>・ その他の改善のための方策の主な内容：<br>安全管理者による情報の収集・調査・分析及び改善評価<br>リスクマネジメント委員会による改善具体策の検討・実施<br>改善具体策のフィードバック（リスクマネジメントニュースによる周知、各種マニュアルの作成、機器・器具類の改善等）   | (有) 無      |

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

| ① 院内感染対策のための指針の策定状況  |         | <input checked="" type="checkbox"/> ・ <input type="checkbox"/> 無 |     |                 |    |    |    |         |         |               |     |                |         |         |                       |     |                 |
|--|---------|--|-----|-----------------|----|----|----|---------|---------|---------------|-----|----------------|---------|---------|-----------------------|-----|-----------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>指針の主な内容：平成 20 年 10 月 1 日現在</li> </ul> <p>(1)『院内感染対策のための指針』は、平成 19 年 4 月 1 日付で制定した。</p> <p>(2)同指針には、院内感染対策に関する基本方針、院内感染管理体制、院内感染対策のための教育・研修、感染症発生状況報告体制、院内感染発生時の対応、患者などに対する当該方針の閲覧に関する基本方針を定めている。</p>  |         |  |     |                 |    |    |    |         |         |               |     |                |         |         |                       |     |                 |
| ② 院内感染対策のための委員会の開催状況   |         | 年 12 回   |     |                 |    |    |    |         |         |               |     |                |         |         |                       |     |                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>活動の主な内容：平成 19 年度 1 年分</li> </ul> <p>(1)院内感染防止委員会(ICC)は、原則として毎月第4水曜日午後 5 時から開催した。</p> <p>(2)ICCの議題は、院内感染対策や感染症検査の扱いに関する議題、ICC運営や院内感染対策チーム(ICT)などの運営に関する議題、ICT活動報告、定期報告、その他感染に関することなどを検討した。</p> <p>(3)定期報告は、前月度の分離菌や薬剤感受性などの定期感染情報報告、ウイルス抗原検査情報報告、大学病院で実施した東病院の感染症関連検査報告、感染症届出及び検査結果速報報告、職員の針刺等事故発生状況報告、厨房等従事者の定期糞便検診結果、環境定期検査報告である。</p>  |         |  |     |                 |    |    |    |         |         |               |     |                |         |         |                       |     |                 |
| ③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況   |         | 年 4 回  |     |                 |    |    |    |         |         |               |     |                |         |         |                       |     |                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>研修の主な内容：平成 19 年度 1 年分</li> </ul> <p>(1)新人職員研修は年 2 回、全職員を対象とする講演会は年 2 回開催した。</p> <p>(2)全職員対象の講演会は、ビデオによる講演会を各 3 回開催した。</p>   |         |  |     |                 |    |    |    |         |         |               |     |                |         |         |                       |     |                 |
| <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; padding: 2px;">開催日</th> <th style="text-align: center; padding: 2px;">会場</th> <th style="text-align: center; padding: 2px;">内容</th> <th style="text-align: center; padding: 2px;">対象</th> <th style="text-align: center; padding: 2px;">演者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; padding: 2px;">H190614</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">合同講義室ほか</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">抗菌薬の適正使用を目指して</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">全職員</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">感染管理室長<br/>砂川慶介</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 2px;">H191019</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">合同講義室ほか</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">新型インフルエンザに対する医療機関での備え</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">全職員</td> <td style="text-align: center; padding: 2px;">東北大学准教授<br/>加来浩器</td> </tr> </tbody> </table> |         |  | 開催日 | 会場              | 内容 | 対象 | 演者 | H190614 | 合同講義室ほか | 抗菌薬の適正使用を目指して | 全職員 | 感染管理室長<br>砂川慶介 | H191019 | 合同講義室ほか | 新型インフルエンザに対する医療機関での備え | 全職員 | 東北大学准教授<br>加来浩器 |
| 開催日  | 会場      | 内容   | 対象  | 演者              |    |    |    |         |         |               |     |                |         |         |                       |     |                 |
| H190614  | 合同講義室ほか | 抗菌薬の適正使用を目指して  | 全職員 | 感染管理室長<br>砂川慶介  |    |    |    |         |         |               |     |                |         |         |                       |     |                 |
| H191019  | 合同講義室ほか | 新型インフルエンザに対する医療機関での備え  | 全職員 | 東北大学准教授<br>加来浩器 |    |    |    |         |         |               |     |                |         |         |                       |     |                 |
| ④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況   |         |  |     |                 |    |    |    |         |         |               |     |                |         |         |                       |     |                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>病院における発生状況の報告等の整備 ( <input checked="" type="checkbox"/> · <input type="checkbox"/> 無 ) 平成 20 年 10 月 1 日現在</li> </ul> <p>(1)検査結果速報による病原体検出の把握(届出感染症や大学病院指定感染症の病原体、教職員・学生より食中毒の原因病原体検出時に速報する)、耐性菌検出速報など。</p> <p>(2)臨床診断による感染症・食中毒発生報告</p> <p>(3)サーベイランスによる発生把握(手術部位、血管内・尿路内留置カテーテル、人工呼吸器関連肺炎)</p> <p>・ その他の改善の方策の主な内容：</p> <p>(1)病院組織の中に独立した病院長直轄の「感染管理室」を設置し、専従の看護師と専任の臨床検査技師を各 1 名、兼任の職員 5 名(医師 3 名・薬剤師 1 名・事務職 1 名)を置いた(平成 19 年 4 月 1 日付)。</p> <p>(2)『院内感染防止対策の手引-2008年版-』を平成 20 年 4 月 1 日付で発行した(第 17 次改訂版)。</p> <p>(3)ICT活動は、毎週 1 回環境や抗菌薬の巡視を、二次感染の拡大が危惧される病原体や多剤耐性菌などを検出した場合は隨時巡視を実施した。</p> <p>(4)年間を通じて、耐性菌感染対策、インフルエンザやノロウイルスの流行時の対策、結核対策、食中毒対策(教職員や学生)などを実施した。</p> <p>(5)院内インターネット環境に『院内感染対策のための指針』、『院内感染防止対策の手引』、『かんせん情報誌』、『感染症診療のための臨床分離菌情報』等を掲示し、24 時間閲覧や情報提供に務めた。</p>   |         |  |     |                 |    |    |    |         |         |               |     |                |         |         |                       |     |                 |

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

|   |   |
|---|---|
| ① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況  | ( <input checked="" type="radio"/> 有)・無 |
| ② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況  | 年 8回                                    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容 :</li> <li>○研修医 医薬品の安全使用について</li> <li>○医師 添付文書の読み方について</li> <li>○医師・看護師 TDM の考え方について</li> <li>○看護師 簡易懸濁方について、IVトレーニング、薬の基本、麻薬の適正使用及び適正管理</li> <li>○全職種 簡易懸濁方の現状とこれからについて</li> </ul>  |   |
| ③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況  |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 (<input checked="" type="radio"/> 有・無)</li> <li>・ 業務の主な内容 :</li> <li>○別紙目次参照</li> </ul>   |   |
| ④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況  |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="radio"/> 有・無)</li> <li>・ その他の改善の方策の主な内容 :</li> <li>○医療安全管理室との定期的な情報交換（1回/週）を行っている。</li> <li>○リスクマネジメント委員会の下部組織である投薬・注射WGで医薬品の安全管理について検討している。</li> <li>○医薬品安全使用のための業務手順書配布</li> <li>○医薬品安全使用および安全管理の手順書作成</li> <li>○医薬品保管の表示の改善</li> <li>○遮光医薬品の情報提供</li> </ul> |   |



北里大学病院  
Kitasato University Hospital

## 目 次

|                                  |    |
|----------------------------------|----|
| 第1章 医薬品の採用 .....                 | 1  |
| 1-1. 採用医薬品の選定                    |    |
| 1-2. 採用医薬品情報の作成・提供               |    |
| 第2章 医薬品の購入 .....                 | 7  |
| 2-1. 医薬品の発注                      |    |
| 2-2. 入庫管理と伝票管理                   |    |
| 第3章 医薬品の管理 .....                 | 8  |
| 3-1. 医薬品の管理（保管管理）                |    |
| 3-2. 医薬品の管理（品質管理）（全病院共通）         |    |
| 3-3. 規制医薬品の管理                    |    |
| 第4章 医薬品情報の収集・管理・提供 .....         | 18 |
| 4-1. 医薬品情報の収集・管理および専門的評価         |    |
| 4-2. 医薬品情報の提供                    |    |
| 4-3. 医薬品副作用情報の管理                 |    |
| 第5章 処方 .....                     | 29 |
| 5-1. 処方オーダ                       |    |
| 5-2. 処方オーダ時の注意                   |    |
| 第6章 指示だし・指示受け .....              | 45 |
| 6-1. 指示だし・指示受け手順                 |    |
| 6-2. 緊急時指示だし・指示受け手順              |    |
| 第7章 調剤業務ならびに病棟・各部門への医薬品の供給 ..... | 49 |
| 7-1. 処方監査・疑義照会・調剤                |    |
| 7-2. 調剤薬の交付・服薬指導                 |    |
| 7-3. 薬剤交付後の経過観察                  |    |
| 7-4. 注射せんに基づく病棟・各部門への供給          |    |
| 7-5. 定数配置薬の病棟・各部門への供給            |    |
| 第8章 与薬業務 .....                   | 53 |
| 8-1. 与薬業務基準                      |    |
| 8-2. 与薬方法                        |    |
| 8-3. 輸液・輸注ポンプ                    |    |
| 8-4. カラーシリンジ                     |    |
| 8-5. 薬物血中濃度モニタリング（TDM）の実施        |    |

|                            |     |
|----------------------------|-----|
| <b>第9章 服薬管理</b>            | 76  |
| 9-1. 薬剤師による服薬指導            |     |
| 9-2. 投与後の経過観察と服薬指導記録作成     |     |
| 9-3. 外来患者からの相談             |     |
| <b>第10章 持参薬の取り扱い</b>       | 81  |
| 10-1. 患者情報の収集・管理・活用        |     |
| 10-2. 入院時の使用医薬品の確認         |     |
| <b>第11章 トラブル対応</b>         | 85  |
| 11-1. 注射薬誤注入時の対応           |     |
| 11-2. 血管外漏出について            |     |
| 11-3. 低血糖時対応               |     |
| 11-4. 副作用報告の方法             |     |
| 11-5. 麻薬破損・紛失対応            |     |
| <b>第12章 緊急時使用医薬品</b>       | 96  |
| 12-1. ファーストライン医薬品          |     |
| 12-2. セカンドライン医薬品           |     |
| <b>第13章 ハイリスク医薬品</b>       | 98  |
| 13-1. 抗がん薬                 |     |
| 13-2. カリウム製剤               |     |
| 13-3. ワルファリンカリウム           |     |
| 13-4. インスリン                |     |
| 13-5. 循環操作動薬               |     |
| 13-6. 麻薬                   |     |
| 13-7. 向精神薬                 |     |
| 13-8. 筋弛緩薬                 |     |
| <b>第14章 特殊医薬品</b>          | 127 |
| <b>第15章 各科特別マニュアル</b>      | 132 |
| 15-1. 小児科                  |     |
| 15-2. 手術・麻酔部門              |     |
| 15-3. 救急部門・集中治療室           |     |
| <b>第16章 他施設との連携</b>        | 135 |
| 16-1. 薬-薬連携                |     |
| 16-2. 他施設からの問い合わせ等に関する体制整備 |     |

## 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

|  |         |
|--|---------|
| ① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況  | (有) 無   |
| ② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況  | 年100回以上 |
| ・ 研修の主な内容：   |         |
| 人工呼吸器の取り扱いについて 閉鎖式保育器の取り扱いについて 血液浄化装置の取扱いについて<br>除細動器の取り扱いについて 補助循環装置の取り扱いについて 輸液シリンジポンプの取り扱いについて<br>など  |         |
| ③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況  |         |
| ・ 計画の策定 (有) 無<br>・ 保守点検の主な内容：<br>定期点検（外観点検、機能点検、作動点検、精度点検、電気的安全性点検） 終了時点検（作動点検、外観点検）<br>日常点検（ラウンド点検、作動点検、使用法確認） 故障時点検（外観点検、機能点検、作動点検）<br>など  |         |
| ④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況   |         |
| ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有) 無<br>・ その他の改善の方策の主な内容：<br>リスクマネジメント委員会での報告（医療機器安全性情報の徹底、院内院外インシデントの報告・検討）<br>機器設備委員会の開催（院内インシデントの報告・検討）<br>院内広報誌（リスクマネジメントニュースなど）での広報（医療機器安全性情報等）<br>医療機器安全使用研修会の開催・修了証の発行<br>など |         |